



# 尾久西だより

荒川区立尾久西小学校

発行日 平成29年4月6日

発行者 校長 末永 寿宣

No. 314 4月号

## 平成29年度尾久西小学校経営方針

校長 末永 寿宣

希望を胸いっぱいにした新1年生67名、全校児童408名の登校とともに、本校の平成29年度がスタートしました。学級数16学級で今年度も教育活動の充実に向け、職員一同全力で取り組んでまいります。保護者・地域の皆様方の本校教育活動への更なるご理解とご協力をお願いいたします。今年度は、以下の経営方針のもと、すべての教育活動を「子供中心主義」で進めてまいります。

### 1 基本理念

地域と一体となり、「児童中心主義を貫く学校づくり」を学校経営の基盤とし、何があってもへこたれない子に育てる。

「児童中心主義」とは、子供におもねるのではなく、子供の発達の可能性を見極め、可能性を伸ばすことをいつも念頭に置いて、以下の三点を重点に置き、児童を育てることである。

- (1) 児童の人格とその独自性を認め、児童の活動・興味・自発性を尊重します。
- (2) 児童を大人中心・教師中心の考え方のみで教え、しつけるのではなく、児童の発達を見極め、可能性を伸ばすことをいつも念頭において指導します。
- (3) 地域と一体となって、すべての児童をすべての教職員で育てていきます。

### 2 教育重点目標 「たくましい子」(「やさしく かしこく たくましく 輝け!尾久西の子」)

### 3 目指す学校像、児童像、教師像

#### (1) 目指す学校像

- ア 笑顔があふれ、歌声が響きあう、一人一人が輝く学校
- イ 教職員・児童がともに感動し、誇りをもつ学校
- ウ 児童・保護者満足度と教職員満足度が高い学校

#### (2) 目指す児童像

- ア 「あ」 進んであいさつをし、礼儀正しい子
- イ 「い」 自分の命を大切にし、他者の命も同じように大切にする子
- ウ 「う」 進んで運動し、体を鍛えようとする子
- エ 「え」 笑顔を忘れず、他者と穏やかに関われる子
- オ 「お」 思いやりがあり、気づき、考え、実行する子

#### (3) 目指す教師像

- ア 愛情、情熱、高い倫理観と社会的常識、実践的指導力を備え教師
- イ 思いやりがあり、人権尊重を基盤とし、児童に平等に接する教師
- ウ 常に児童に寄り添い、児童の変化を見逃さず、即座に対応する教師
- エ 自己の職責を自覚し、率先垂範する教師

### 4 重点目標

#### (1) 学習習慣の定着と基礎・基本の習得

- ア 教科書の完全理解 (既成のドリル等に頼らず教科書をくり返し学習の教材とする)
- イ 板書の工夫と児童のノートとの連携及び読み返し、活用することを目的にしたノート作り

#### (2) 読書活動の充実・推進

- ア 学校図書館の授業での活用

- イ 調べる学習の推進及び読書量の継続的な確保
- (3) ICT教育の充実
  - ア 電子黒板及びタブレットPC等を活用した教育の実践
  - イ 情報モラル教育の徹底
- (4) 防災ジュニアリーダーの育成を基盤にした健全育成
  - ア 地域及び関係機関と一体となった防災教育の推進
  - イ 「助けられる人から助ける人へ」の意識向上
- (5) 質の高い体験活動の充実
  - ア ダイナミックな体験の提供（ホームステイや海外との交流等）
  - イ 地域の体験行事や教育委員会が設定する体験学習を最大限活用

## 5 指導の重点

- (1) 学習指導
  - ア できないことを指摘するのではなく、できること、できたことを認め、褒める指導を行う。
  - イ 音読・朗読・暗唱を重視し、分かる喜び、学ぶ楽しさが実感できるよう指導法を改善するとともに、児童のプラス面を評価しながら学ぶ意欲を高め、学力の向上を図る。
  - ウ 学校関係者評価及び児童による授業評価を反映させた授業改善に取り組む。
  - エ あらかわ寺子屋事業を活用し、基礎・基本の内容を繰り返し学習させ定着させる。
- (2) 生活指導
  - ア 日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生活指導の充実を図る。
  - イ 地域・保護者と連携し、あいさつ・礼儀、時間のけじめ、きちんとした学習態度など、基本的な生活習慣を確立させ、児童の健全育成に努める。教職員も進んで児童へのあいさつ、声掛けを心がける。
  - ウ スクールカウンセラーや心理専門相談員等と連携し、組織的な相談体制の充実を図り、個々に応じた相談活動を行う。

## 6 学校運営

- (1) 創意ある分掌・学年・学級経営の充実
  - ア 教育活動の円滑な実施と教育課題への迅速な対応を実現するために、分掌主任及び学年主任等を中心として組織的に運営にあたり、校務改善を適切に行う。
  - イ 人権尊重の精神を踏まえ、一人一人の児童の実態に配慮し、教師と児童、児童相互の豊かな人間関係を育み、温かく活気のある学級づくりに努めるとともに、児童の自発的活動を促し、一人一人の個性や能力の伸長を図る。
  - ウ 個別指導計画・個別の教育支援計画の作成、実践研究、個別指導を充実させ、特別支援教育を推進する。
- (2) 地域・関係機関との連携
  - ア 意図的に経験の場を設定し、質の高い体験をさせるため、プロジェクトチーム (PT)を設定し、学校・地域・関係機関が一体となり連携する。
  - イ 町会などの地域コミュニティが設定する体験行事や荒川区教育委員会が設定する体験学習を最大限活用し、児童の体験活動を推進する。
- (3) 児童中心主義に基づいた環境整備
  - ア 児童の努力を児童朝会等で顕彰するとともに、顕彰スペースを設置することで、児童の達成感・自己有用感を養う。
  - イ 校庭全面芝生の財産を維持しつつ、活用開始時期を工夫することで、運動する喜びを体感させ、児童相互の心の交流を図る。
  - ウ 教室・廊下・昇降口等の整理整頓に努め、整然とした環境の心地よさを児童に味わわせる。

---

平成29年度も児童の体験活動の機会を充実することで、何があってもへこたれない子に育てるため、努力してまいります。保護者・地域の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、これからもご支援のほどよろしくお願い申し上げます。